

◆病院図書室ネットワーク紹介◆

済生会図書室連絡会について

深谷 里子

I. はじめに

社会福祉法人恩賜財団済生会（以下 済生会）は1911（明治44）年に発せられた「済生勅語」と、明治天皇より下賜されたお手元金150万円を基金に創立されました。2014年4月現在で全国40都道府県に支部を持ち、病院79、診療所20を含む371の施設で約5万4千人の職員が働いています。

済生会図書室連絡会は、2010年10月に全国済生会事務（部）長会議において許可を得て活動を開始しました。済生会の図書室担当者により構成され、全国に広がる済生会の規模を生かした図書室運営を目指しています。

活動内容と目標は「図書室間の連絡体制の強化とその継続」「全国の済生会図書室の現況の把握」「担当者の研鑽、情報共有により、医療情報提供サービスの質向上と標準化を図る」「図書室資源の有効活用（共同購入など）の検討」「その他、済生会図書室連絡会として相応しい事業」となっています。

2007年に済生会の機関誌「済生」83巻11号において「病院図書室」が特集された際に、関東周辺の担当者が情報交換を開始したことが活動の契機になりました。それぞれの施設

で資料の電子化や価格高騰に悩んでおり、施設ごとの交渉に限界を感じていた時期でもありました。図書室の運営に「済生会」のスケールメリットを生かさなければもったいないという共通の思いが、活動の原点になっています。

II. 現在の活動内容

1. メーリングリストによる情報交換

情報交換は無料のメーリングリストを利用しています。日々の業務の疑問や所蔵確認、図書室整備のための情報交換など、活発な情報交換が行われています。

寄せられる質問は「どの施設・担当者も一度は悩んだ問題」であることも多く、ワンパーソンライブラリが多い病院図書室において、他施設の図書室担当者に相談できる手段を確保しておくことは大切です。

2. コンソーシアム

2010年度より、コンソーシアムにも取り組んでいます。交渉は事務局（栗橋病院）が担当し、メーリングリストにて随時報告や情報交換を行います。済生会全体で定価との価格差で、年間1千万円程度の費用削減に繋がっており、今後も済生会図書室連絡会の主要な事業になると考えています。

3. 共同研究

2011年には、済生会創立100周年に合わせ、

FUKAYA Satoko

埼玉県済生会栗橋病院 人事・総務課（図書室）

tosyo@saikuri.org

共同研究「医学中央雑誌にみる恩賜財団済生会100年」を開始しました。医学中央雑誌刊行会ご協力のもと「医学中央雑誌」創刊号から済生会の業績を調べてみるというもので、恩賜財団済生会の創立時の記事なども見つけることができました。この研究は今後も有志が継続予定です。

4. 研修会

2014年7月18、19日に「済生会図書室連絡会第1回研修会および赤十字・済生会合同研修会」を開催しました。以前より研修会を実施したいと思っておりましたが、日赤図書室協議会からのお声かけにより、初日を「済生会図書室連絡会第1回研修会」とし、2日目が「日赤・済生会合同研修会」となりました。済生会、日赤とも明治期からの長い歴史がありますが、「図書室」を軸にした連携は今回が初めての取り組みと思われます。既に長年の積み重ねがあり、活発に活動されている日赤図書室協議会の活動や取り組みは、これからの済生会図書室連絡会の方向性においても大きな示唆となりました。研修会は今後も定期的に開催していきたいと考えています。

III. 今後の展望と課題

1. 済生会への貢献

医療が「正しく新しい情報を根拠として提供されるべき」ということは、病院の機能や規模に関係ありません。また、初期研修医や看護師等の採用においても「学術環境の整備」は大きなアピールポイントにもなります。済生会では会全体で臨床研修にも力を入れており、図書室という立場から、済生会の医療・福祉サービスの向上や人材育成に貢献したいと考えています。

2. 連絡体制の強化

各施設の図書室の整備状況はさまざまです。図書室整備に力を入れるタイミングも、それぞれの病院により違います。なかには「図書室をこれから整備する」という病院もあり、済生会図書室連絡会の存在の周知に苦慮しています。特にコンソーシアムでは、事務局から各施設への連絡体制が整っていることが重要になるため、周知が課題となっています。

3. 活動の継続性

図書室連絡会の活動を安定的に継続させていくためには、現在の事務局と有志によるボランティア的な運営から、きちんと組織だった運営への転換が必要になります。これは喫緊の検討課題です。

IV. おわりに

研修会のアンケートで、参加理由に「済生会の研修会だったから」という回答がありました。済生会には全国に支部があるため、遠方からの出張は病院としても交通費や宿泊費の負担も少なくありません。しかし今回は上司からのすすめにより参加したという担当者もおり、済生会だからこそその繋がりを強く感じました。図書室業務の初任者も気軽に相談しながら、一緒に医療情報環境の充実に取り組んでいきたいと考えています。

